

2021年度
自己点検・自己評価
報告書

令和3年4月～令和4年3月

富山国際大学子ども育成学部

<自己点検・自己評価報告書の改訂について>

大学全体のアクションプランと自己点検・自己評価報告書との連携を意識して、1年間の学部の取り組みによる「1実績と現状」及び「2課題」が明確になるようにしてある。

特に大学のアクションプランの5つの指針と連動するようにまとめ、アクションプランの評価の際にその根拠資料となるようにした。また、この報告書の記載がアクションプランのレビューにも活用できるようにした。

さらに各カテゴリーで課題を最後に枠で囲んで見やすくなるようにした。これは大学全体のアクションプランの評価や自己点検・評価報告書における学部の課題を明確にし、次年度への取り組みを具体化するためである。

最初のカテゴリー〇に概況を設け、学部の全体像を一覧できるようにした。次年度以降内容の精選を進め、簡潔かつアクションプランと密接に連携し、学部のPDCAサイクルの中心となる資料にしていきたい。

カテゴリー	項目	アクションプランの指針	担当部署
〇	概況	全体像	学部長
I	教育活動	指針1：教育の質向上を図り、学生の成長を保証する教育を実現する。	学部学務センター（教務担当） 実習指導センター
II	国際交流・地域貢献	指針2：国際化、情報化に対応し、地域創生に貢献する教育研究や各種事業を展開する。	国際交流センター 地域交流センター
III	学生支援・キャリア支援	指針3：活気が溢れ、個性を伸ばせる学校生活への支援やキャリア形成支援を強化する。	学部学務センター（学生支援） キャリア支援センター
IV	入試・情報発信	指針4：大学のブランディングと情報発信を強化し、多様な学生受け入れを促進する。	入試センター委員会
V	マネジメント体制	指針5：大学のマネジメント体制を強化し、健全で機能的な大学運営を行う。	運営管理部
VI	資料 他	保護者向けのたより等	学部学務センター

※取りまとめに関しては、新しい組織で分担した。

概 況

2021（令和3）年度 子ども育成学部の現状と課題

「学部の理念・目標の達成」

子ども育成学部は、心身ともに健やかな子どもの育成を通して地域社会の発展に貢献できる人を養成し、保育・教育・福祉など子ども育成に関する基礎的・専門的・実践的教育研究を行うことを目的として、2009（平成21）年4月に設置された。

学部がめざす人材像は、「子どもの最善の利益」尊重の理念、すなわち教育的愛情と子どもの福祉（幸福）への献身、専門的な知識・技術と豊かな人間性を併せ持ち、一人ひとりの子どもの発達を理解し、主体的な活動を促す環境を整えて、子どもの生活・学習・発達を支援していく、実践的能力を備えた質の高い子ども育成の専門家である。

学部開設13年目となる2021（令和3）年度の入学者は、定員90人に対して104人（入学定員充足率1.16倍）、3年次編入学者は6人（定員5人）であった。2021年度は、収容定員370人に対して在籍学生数394人（収容定員充足率:106.5%）で、2015年度以来、7年連続で収容定員を充足している。

2022年3月には、第10期生96名が就職・進学など学部での学びを生かして、それぞれの新しい人生を歩み始め（小学校教員39人、保育士・幼稚園教諭等28人、社会福祉士・相談員等12人、一般公務員4人、企業等5人、大学院進学8人等）、卒業生累計は885名となった。卒業生の成果は、県内の保育・教育・福祉関係者の注目を集め、高等学校・受験生・保護者の期待と評価は高まっている。高い進学ニーズと人材輩出への地元ニーズに応じて、2018（平成30）年度に入学定員を80名から90名（ただし、指定保育士養成施設の定員は80名を維持）へ変更して4年目となった。

（参考）過去4年間の入学者数推移

入学年度	2018(H30)	2019(H31)	2020(R2)	2021(R3)	平均
入学定員(人)	90	90	90	90	-
入学者数(人)	91	99	89	104	95.8
入学定員超過率	1.01	1.10	0.99	1.16	1.07

このように近年は比較的安定して入学者を確保してきたが、全国的には私学を取り巻く状況は厳しさを増している。少子化による人口減少は、中長期的に、志願者の中核となる18歳人口の減少のみならず、卒業生の就職に直結する保育・幼児教育、小学校教育の量的ニーズの減少をもたらす。

こうした中で、本学部が存続し、その使命・目的を持続的に達成していくためには、教育の質のより一層の向上を図り、学生の学修成果を高め、資質の高い専門職人材を輩出し続けること、地域社会の教育・保育・福祉の質向上や課題解決に資するような研究活動や地域連携活動を推進し、社会から必要とされる高等教育機関であり続けることが肝要である。また、社会の変化に対応し、学園全体の基本目標であるICT化の推進と国際化推進を図りながら、新たなニーズに適合した教育課程、教育内容・教育方法の改善や開発にも取り組まなければならない。

I 教育活動

○教育課程・授業の展開及び教員組織

(1) 教職課程

教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則の改正に伴い、2019（平成 31）年度から新たな教職課程（小学校教諭・幼稚園教諭）の運用を始めて 3 年目となった。今年度は、幼稚園教諭免許課程において「領域に関する専門的事項」の 5 領域科目を 2020（令和 4）年度から開設する事後調査対応届を 9 月に文部科学省へ提出し、2022 年 2 月に対応完了と判定された。この変更にあわせて、教養科目「子どもと環境」を「子どもと環境（教養）」に名称変更し、教職課程科目と区別することとした。加えて、小学校教諭免許課程において「情報通信技術を活用した教育の理論及び方法」科目を新設し、2022 年度から開設する変更届を 2 月に文部科学省へ提出し、承認された。あわせて、学部カリキュラムの整理統合のため、「幼稚園教育実習Ⅰ」（本学独自開設科目）を閉講し、「幼稚園教育実習Ⅱ」を「幼稚園教育実習」に、「幼稚園教育実習指導Ⅱ」を「幼稚園教育実習指導」に名称変更することとした。これらのカリキュラム変更は、2022（令和 4）年度入学生から適用となる。

(2) 保育士養成課程

児童福祉法施行規則第 6 条の 2 第 1 項第 3 号の指定保育士養成施設の修業教科目及び単位数並びに履修方法の一部改正に伴い、2019（平成 31）年度から新たな保育士養成課程の運用を始め 3 年目となった。

(3) 社会福祉士養成課程（国家試験受験資格取得）

社会福祉士・介護福祉士学校指定規則及び社会福祉に関する科目を定める省令の一部を改正する省令等の改正に伴い、地域共生社会の実現を推進し、新たな福祉のニーズに対応するための実践能力を備えた社会福祉を養成するため、教育内容の見直しを行い、2021（令和 3）年 4 月 1 日より新たな社会福祉士養成カリキュラムの運用を始めた。あわせて、ソーシャルワーク演習について、子ども育成学部授業科目に関する規程第 4 条第 1 項に定められた単位数（講義及び演習科目については 15 時間の授業をもって 1 単位とする）に変更し、2021（令和 3）年 4 月 1 日より運用を始めた。

(4) 教員組織等

教員組織は、2020 年度末の退職教員 2 名分が欠員となった専任教員 18 名体制で、保育・教育・福祉の教員全体が協力し、3 分野の教育を工夫改善して推進した。2021 年度末退職する 1 名とあわせて、3 名の教員公募を行い、2022 年 4 月から新任教員 3 名を迎える予定である。

新型コロナウイルス感染予防のため影響を受けた実習が複数あった。①「保育所実習Ⅱ、施設実習Ⅱ」は中止になり大学の授業で代替した。②「介護等体験」は施設での 5 日間が中止になり遠隔授業を視聴してのレポートで代替した。③「富山に学ぶインターンシップⅠ」では体験時間 80 時間を満たさない学生 3 名がいたが web の教育関係等の視聴により代替した。④「相談援助実習Ⅰ・Ⅱ」では PCR 検査を義務づけた施設があり、検査費用は大学の全額支援で実施することができた。⑤「幼稚園教育実習Ⅰ」を中止し次年度へ先送りした。その他の実習は例年通り実施できた。

また、学生による授業アンケートは、例年どおり前期・後期の 2 回実施した。特に、web による方法で全教科において実施し、各教員の授業改善に生かしてきた。幼稚園・小学校教員免許取得希望者を対象にした「教職課程履修カルテ」及び「チェックリスト」を活用

し、教職を目指す学生への指導も実施した。各分野の学外実習の事前・事後指導と実習報告会、卒業研究の中間発表と卒業研究発表会なども、それぞれ改善・充実を図ってきた。

II 国際交流・地域貢献

○地域交流・貢献活動

「子ども育成研究交流センター」の活動として、富山国際大学開学 30 周年記念として子ども育成に関するフォーラムの開催(1回)とニュースレター「子ども育成研究」の発行(1回)、高校及び地域団体等からの要請に対応した出講プログラム 21 件(高校 6 件、地域 15 件)、教育・福祉・保育現場や団体・行政などからの要請に対応した各種審議会・委員会の委員、講演会・研修会講師、現場実践研究への支援活動など、多様な地域貢献に取り組んだ。

○研究

教員の研究活動では、文科省学術研究助成基金(科研費)助成研究 4 件(前年度 2 件)、(財)富山第一銀行奨学財団研究助成 3 件(前年度 2 件)などの外部資金を活用した研究に取り組むとともに、研究紀要「子ども育成学部紀要」第 12 巻 6 件(前年度 9 件)を発刊した。また、学内教員相互の研究交流のための研究交流サロンは開催できなかった(前年度 1 件)。

III 学生支援・キャリア支援

○学生生活支援・家庭との連絡

校舎等施設利用のあり方など学生生活をめぐる要望に応え、キャンパスアメニティを向上させるため、学生代表との懇談会(1 回実施)や学友会(全員加入制)との連携にも引き続き努めた。

学生指導では、適応支援チームを中心に、ゼミ担当教員・科目担当をはじめカウンセラーなどとも連携しながら、相談支援に努めた。

家庭に向けた学部通信「保護者の皆様へ」(第 25 報・第 26 報)の配布、保護者相談会をコロナ禍により年 1 回とし、直接懇談が不都合な保護者に対しては電話等を用いて柔軟に対応した。また、学生生活や進路についても、適宜個別に保護者と連絡をとり、問題が複雑・重篤なケースには、保護者来校による懇談・面接指導を行った。

なお、富山国際大学同窓会「蒼昊会」の子ども育成学部支部の第 7 回ホームカミングデー及び小学校教育研究学会の第 3 回研究大会は、新型コロナウイルスの感染予防のために中止となった。

○キャリア支援

キャリア支援については、「小学校教員採用 10 名、公立保育士採用 10 名、社会福祉士国家試験合格 10 名」を目標に、キャリア支援入門講座やキャリア支援講座を実施し、キャリア支援担当参事・事務室・分野担当教員・ゼミ担当教員の連携などにより、強化・充実を図った。

最終的には、卒業生総数 114 名に対して「小学校教員試験合格 44 名(うち既卒者 9 名)、公立保育士採用 18 名、社会福祉士国家試験合格 18 名(うち既卒者 0 名)」の成果を上げることができた。どの分野も、目標値の 2 倍近い成果をあげた。臨時採用も含めた分野別進路については、「小学校分野 37 名(前年度 29 名)、保育・幼児教育分野 32 名(前年度 27 名)、社会福祉分野 22 名(前年度 16 名)、教育系大学院等進学 5 名(前年度 5 名)、公務員・警察 4

名(前年度 3 名)、企業 11 名(前年度 10 名)、その他 3 名(前年度 2 名)であり、卒業生の約 8 割が専門分野または関連分野に進んだことになる。今年も小学校分野に進んだ人数が、保育・幼児教育分野を上回り、この傾向は続くと予想される。また、社会福祉士国家試験の合格率は 66.7%(現役合格率は 85.7%)で、全国の平均合格率 29.3%を大きく超え、全国第 15 位、私立大学の中では第 3 位に位置している。

IV 入試・情報発信

令和 3 年度入試志願者数は、コロナ禍により県外大学を敬遠した学生がいたためか 320 名(定員 90 名の 3.56 倍)となり、昨年度より 44 名増加した。また、普通科単独校からの志願も増加して、受験生の質も向上した。

3 年次編入生も 6 名(定員充足率 120%)であった。富山短大福祉学科からの編入生が 4 名おり、学園内連携推進の成果が表れたといえる。

V マネジメント体制 大学改革・教育改革への取組み

学部運営体制としては、学部連絡調整会議の開催(2 回)及び学部運営委員会の開催(1 回)を精選した。また、各委員会の開催を通して、教職員の目的と情報の共有に努め、教育指導・実習指導・学生指導など学部運営の充実を図った。

今後も、学部自身の責任と自主的な改革により、地域と時代のニーズに対応した教育・研究・社会貢献活動を展開していく必要がある。

<資料>

1. 学生の状況 (令和3年度)

	在籍者数	内訳 (1)	内訳(2) 出身県								
		男：女	富山	新潟	石川	福井	岐阜	滋賀	静岡	茨城	兵庫
1年生(定員90名)	104	25：79	100	2	2						
2年生(定員90名)	90	20：70	87	1	1						1
3年生(定員95名)	103	17：86	98	2	1	1		1			
4年生(定員95名)	97	20：77	96	1							
370名	394	82：312	381	6	4	1		1			1

2. 教員組織 (令和3年度)

区分	人数	内訳
子ども育成学部専任教員	18名	教授10 准教授6 講師4
学園内教員(兼担・兼任)	10名	現代社会学部3 富山短大7
学園外教員(非常勤講師)	34名	
計	64名	

3. 呉羽キャンパス事務室 (令和3年度)

区分	人数	内訳
専任事務職員	3名	事務長1 主査2
兼任職員(短大)	2名	図書館1 健康管理センター1
契約職員	2名	参事(キャリア支援担当)1 職員1
計	7名	

Ⅱ 教育活動

＜授業及び学修活動＞

1. 実績と現状

(1) 概況及び取り組み

2020年度末における急な教員の退職及び病休等があり、非常勤講師の確保も含め、授業の成立に困難を極める状況から年度がスタートした。加えて第5波などコロナ対応も含め、非常に厳しい環境の中で教育活動を進めることは大変難しいものであった。このことは、子ども育成学部の非常に過密なカリキュラムの難しさを露呈することにもなった。教員が過密な授業に加え、実習事務も担当するという厳しい状況の中で時間を割きながら就職等で素晴らしい実績を上げていることは驚嘆すべきものがある。これも多くの教員の献身的な努力によって成し遂げられていることを改めて実感させられた。また、授業改善も含め教育の質保証を考えると、教員の研究や授業にかけられる時間の確保が課題となることも明らかになった。学部の教員の状況を見るに今まで改善を図るよりは、前例をもとに追加を重ね負担を増やす方向に進んできたように思われる。この点を見直し改善を図ることが必要である。

① コロナ禍と授業対応の工夫

コロナ対応については、2年目となり感染状況に応じて対応を協議しながら、遠隔授業への移行の準備等、最小限の対応で済ませることができた。部屋の座席等の分散及び記録、ZOOM等の遠隔授業への準備など対応がスムーズに進んだ。

年度当初から対面授業の実施の方向で対応を進め、コロナ感染の拡大で苦しい場面もあったが、ほぼ予定通り授業を実施することができた。特に学内のクラスターもなく授業ができたのは学生及び教員の検温、マスク等の対応が適切であったからと考える。実習については受け入れ側の対応が多様で実施について延期等があり、実施が大変であった。

② 授業改善と学生参加の学部FDの実施

授業改善については、アクティブ・ラーニングの視点から見直しを図るために学部FDでの授業改善の報告などを通して、研鑽に努めた。また授業評価アンケートの活用として、授業評価アンケートの教員のコメントについても非常勤講師を除く全科目に拡大し、オムニバスの授業についても記入いただくことになった。

さらに本年度から学生参加の学部FD（令和4年2月16日）を実施し、授改善について学生の意見も反映できるようにした。学生からは、一方的な講義形式の授業から意見交換も含め、主体的に参加できる授業に変えてみてはどうかといった意見が出され、今後継続的に取り組みを進め、授業改善をさらに進める必要性を感じた。

③ 学生の履修に対する意識の向上

全てが学生の責任とは言えないが、単純に資格を取ることに終始してきたため、学年進行で授業を受けていけばよいという学生の安易な考えから履修漏れや履修登録の学期途中での変更等が起きた。開講年次をその年に履修するという考えをもつ学生もいた。特に幼保分野と社会福祉分野ではカリキュラムの変更や新カリキュラムへの移行等があり、先輩に聞くという方法が成り立たない状況になった。このような学生の履修に関する意識を高めるために、学期初めのオリエンテーションで履修について履修登録と変更確認の期間について再確認するとともに学生が自己の履修に責任をもち履修状況を把握し、計画的に履修を進めるように指導した。教職課程では資格取得に向けて履修カルテの活用などのポイントを他謳えた。このことは個々の教員の責任ではないが、複数資格取得のために履修が複雑になっていることにも原因があり、数年かけて改善の必要がある。

④ 「教育と ICT」の新設に向けての準備

教員免許法の改正に伴う新科目の実施に向けて、学則の改正等の準備を行い、「教育と ICT」の新設と前倒しの実施を行うことにした。教職課程では GIGA スクール構想による一人一台タブレットの普及の始まり、ICT の活用が急速に進んでいる。この点も数年前から予想されたが対応が遅れていた。そこで、県内の小学校の機器の導入状況を調査し、富山市が Chromebook を導入し授業を行っていることから、学生が卒業し教壇に立ってもすぐに活用できるように「教育と ICT」の授業で活用するため、授業に必要な機器として、Chromebook の整備を予算要求し 2022 年度からの整備が決定した。

⑤ 数理・データサイエンス・AI リテラシー教育プログラムの履修の推進

「数値・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」対応の科目編成（導入・基礎・心得）について申請が行われた。本学部の修了要件を「情報処理演習」及び「人間と情報」の単位を取得することとし、新入生オリエンテーションで説明を行い、履修者の確保に努めた。

（2）教育指導

- ① 授業科目の履修指導・前後期末試験・再試験の実施
- ② 教養演習：（1・2 年共通）初年次教育（令和 3 年 4 月）リテラシーガイダンス令和 3 年 4～令和 3 年 5 月）、ゼミ別活動合同発表会(令和 3 年 7 月)、個人研究ゼミ発表(令和 3 年 10 月～令和 4 年 1 月)
- ③ 卒業研究：（3 年）中間発表（令和 3 年 10/20～10/30）
（4 年）卒業研究発表会(令和 4 年 2/13)
- ④ 地域社会参加活動：（1 年）20 時間以上の地域活動体験、活動報告会、活動報告集
- ⑤ 学外施設等を利用した授業： コロナ禍のため実施が難しかったが、回復しつつある。
- ⑥ 授業改善の取り組み：授業アンケートの実施（前・後期末 2 回）
- ⑦ 令和 4 年度「入学前指導」については通信課題の提出及び e-ラーニングを実施した。
- ⑧ 学部 F D 令和 3 年 9 月 29 日 「Teams の利用と授業の録画や stream へのアップ」
令和 4 年 2 月 16 日 「学生参加による授業改善のための F D」

2 課題 <授業及び学修活動>

(1) 単純な資格取得から各分野の専門性を高めるためのカリキュラムの見直し

従来から、複数資格が取得できるということを謳って学生募集やカリキュラムの編成を行ってきた。しかし実際に全ての資格を取得できた学生は僅かで、2～3資格が主である。また、小学校免許のみという単独資格の学生も増加傾向にある。この学生のニーズの変化に対しての分析と対応が遅れ、学年ごとに資格取得の授業を配当するカリキュラムでは、分野の授業の偏りが生じ、過密な時間割に追われ教室も確保できず、学生も教員も疲弊する状況となっている。各分野の努力によって学生の就職などキャリアの実現は果たされているが、資格取得のみのカリキュラムから各分野の専門性を高めるカリキュラムの見直しを図る必要に迫られている。

(2) アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善

学生の授業評価アンケートの評価は概ね良好であるとはいえ、知識理解を中心とした一方的な講義形式の授業では、現場が求めている実践力など専門性に対応することができない。このことからアクティブ・ラーニングの視点からの授業そのものの改善が必要であり、各分野の専門性を高める授業の在り方を検討することが必要である。その際、さらに学生の意見を取り入れ、ともに授業改善に取り組むことが必要であり、学生ファーストの授業改善に取り組むことが必要となっている。

(3) ICT活用の必要性

ICTの活用について、その必要性を認識してはいたが、根本的な対応が遅れている。学部として、積極的にICTの活用を進めることにここ数年方向性をもって対応することができなかった遅れを取り戻す必要がある。ICTの活用と国際化を授業の横線として授業を考えるという大学の大きな方向性を理解せず、今までと同じ利用でよいという古い考え方や積極的にICTを活用することへの対応の遅れが課題となっている。それと連動してICTを活用するための機材の刷新について対応が遅れている。各教室のプロジェクターもHDMI対応のものではなく、設備の老朽化に伴い、パソコンと上手くつながらないことや動画が上手く再生できなどICTを活用した授業がスムーズに行えない状況となっている。

<実 習>

1 実績と現状

(1) 実習の取り組み状況

全実習先に、実習前後2週間の健康記録表・実習中の健康記録カード・新型コロナウイルス対策にかかる「実習に関する対応指針」（2021年5月12日付）を送付し、本学の対応方針を理解していただいた上で実施していただけるよう配慮した。

実習名【担当者】実習期間、実習先数、実習生数、報告会日については、別添「2021年度実習状況」一覧を参照。

(2) 実習指導センター会議等での協議事項

実習に関するコロナ対応について基本的な考え方を協議した。

→厚生労働省子ども家庭局保育課から【事務連絡】「新型コロナウイルス感染症の発生に伴う指定保育士養成施設の対応について」(令和3年5月19日付)が示されている。そこには、「ワクチン接種やPCR検査等について、実習施設側に対し、養成施設としての感染防護の取組状況や、養成施設側が行っている学内外での感染対策や実習前後での学生等への感染管理教育の内容等を説明し、検査等が実習の受入れの必須要件にならないよう、受入れ機関との対話を積極的に行うよう努めてください」とあることから、その趣旨を踏まえ、本学部においても同様の対応をすることとした。

- ① 実習対応指針(改訂版)に基づき、実施に向けての準備を十分に行い、その内容等を受入れ機関に説明する。その上で受入れが困難とされる場合、代替機関を検討する。なお、どうしても検査等の必要が生じたときは、緊急対策室の判断を仰ぐ。
- ② コロナ感染の状態により、実習先での実習の実施判断を必要に応じ適宜行うこととする。
- ③ 事前打ち合わせ訪問の時点で、検温等実習生の状態、アルバイト実施状況を確認されることがある。実習指導において事前準備の充実を図る。
- ④ 実習訪問指導に関しては、各実習担当の判断で実施する。なお、訪問指導の際は、教員も訪問前後2週間、検温及び行動記録を行う。

※問い合わせのあった実習先に関しては、依頼元の行政に確認する。受入れ困難な場合は、代替施設を検討してもらうこととする。それでも厳しい場合は、本学部で受入れ先を探す。

2 課題 <実習>

(1) コロナ禍の実習対応について

コロナ禍の中、介護等体験では特別支援学校について一部代替措置、相談援助実習履修者の一部が年度をまたぐ延期と中止1名、富山に学ぶインターンシップI・IIは一部中断で代替措置、その他の実習は一部延期・実習先変更となったが、その他の実習が実習先の協力で実施できた。2週間前からの検温や健康観察、体調管理、実習に関する対応指針に基づく行動など危機管理能力を高める必要がある。

なお、昨年度同様、コロナ禍では、各省庁からの通知の速やかな周知の必要性、訪問しない場合の実習委託費と手土産の位置づけ、学内実習・演習の際の協力体制、施設との協働による実習指導の質向上、オンラインによる事務の合理化とデジタル技術の活用、PCR検査を求められた際の負担の所在や検査機関の検討、実施期間の分散による起案の難しさなどが挙げられ、適時に対応する必要がある。

(2) 個別配慮を要する学生への対応

健康不安、進路選択への悩み等、個別配慮を必要とする学生が増加傾向にあり、実習直前や実習中に都合が悪くなるという例も見られた。コロナ禍の中、健康管理センターと連携を密にして学生の健康状況を把握することや、実習中に起きた問題点等は、教員相互が分野を超えて理解し合うことが必要になってきている。また、不適切な実習態度により、実習先より評価について相談を受けることもあった。以前にも増して学生に応じた日頃の指導はもとより、実習先との連携、実習指導でより丁寧な対応や早期からの現場体験が求められる。

(3) 入学者増・実習施設減に伴う実習先の確保

入学者増に伴う実習先の確保が難しさと共に、コロナ禍のため受入れそのものを断られるケースもあり、以前にも増して厳しい状況となっている。相談援助実習では、来年度からのカリキュラム改訂により、やむを得ず履修者数が制限されるが、小学校教育実習の履修学生は依然として多く、介護等体験は授業欠席を極力少なくする意味で、分野に応じた履修時期を検討する必要がある。なお、幼稚園減に伴う幼稚園教育実習Ⅱは来年度より幼稚園教育実習Ⅰと統合されるが、富山大学、富山短期大学、保育現場との連携をさらに密にし、実習先を確保していく必要がある。前年度より、保育所から移行した幼保連携型認定こども園の確保を進めているが、幼児教育を教授いただく現場との協働が欠かせない。

(4) 実習指導センター機能の維持・充実

実習事務はコロナ禍でさらに煩雑になっており、実習担当教員の負担増が続き、その他の授業準備、研究活動、学内業務、体調にも支障が出ている。専門職養成教育の質の維持・向上のためには、実習指導教員の連携や工夫に加えて、年間10実習に関する様々な書類作成や連絡調整等の業務を担う実習担当職員の配置が必須である。そのための予算獲得を来年度こそ実現する必要がある。

Ⅱ 国際交流・地域貢献

< 国際交流・地域貢献 >

1. 実績と現状

(1) 第13回子ども育成フォーラムの開催

- ・テーマ : 「教育や保育の実践に生かす特別支援教育の視点」
講師：柳川 公美子 氏（富山総合支援学校教諭；現・金沢星稜大学講師）
講演題目：『子供の主体的な学びに寄り添いながら、一人ひとり「できた！わかった！」へ誘う教師の「授業デザイン力」～特別支援教育の視点を踏まえて～』
- ・概要 : 近年、初等教育や保育の現場において特別な配慮を必要とする子どもが増加し、環境構成や授業のあり方などに苦慮する教員が増えている。新任の保育士や教員がこの面での専門性を向上させることも喫緊の課題となっている。本フォーラムでは、特別支援教育の専門家であり、その現場に精通しておられる柳川公美子先生をお招きし、初等教育や保育において特別支援教育の視点をいかに生かすべきかについて学んだ。
- ・開催日時：令和3年11月27日（土）午後1時～2時40分
- ・開催場所：呉羽キャンパス E館 701～704
- ・参加者数：約150名（教育・保育・福祉関係者、一般市民、学生など）

(2) 高校出講プログラム

各教員が、4年制大学への進学に向けてのモチベーションを高めることに貢献しようとしてと高校へアウトリーチするプログラムである。高校の授業では行われない知的好奇心を高める内容を意識しながら、高度でアカデミックな講義に、高校生が触れる機会をと、コロナ禍のもと感染症対策に十分留意しながら実施した。

(3) 地域出向プログラム

各教員が、富山県内の市町村などの公共機関はじめ各種団体の依頼にもとづき出講し、コロナ禍のもと感染症対策に十分留意しながら研修会、勉強会、講演会を実施した。

【各教員への依頼内容に関する分野・領域】

宮田 徹	教授	児童家庭福祉
大藪敏宏	教授	哲学・社会科教育・相関社会科学
彼谷 環	教授	憲法学
福島美枝子	教授	外国語教育（英語・日本語）
堀江 英一	教授	音楽教育学、音楽修辞学
室林孝嗣	教授	障害者福祉、ソーシャルワーク

村上 満	教授	相談援助、スクールソーシャルワーク、障害者の就労支援
松山 友之	教授	理科教育
相山 馨	教授	ソーシャルワーク
石倉 卓子	准教授	幼児教育学
大平 泰子	准教授	臨床心理学、発達心理学
河崎 美香	准教授	特別支援教育、障害児保育
本江 理子	准教授	保育学、幼児教育学
金子 泰子	講師	体育科教育、スポーツコーチング論
佐部利 典彦	講師	平面制作、アートワークショップ、プロジェクトの企画、実施、 図画工作、美術教育
竹田 好美	講師	保育学、幼児教育学
岩崎 直哉	講師	国語科教育法

(4) 令和3年度教員免許状更新講習

- ・ 内 容：必修領域・選択必修領域開講
- ・ 募集期間：令和3年7月1日（水）～7月10日（金）
- ・ 日 程：令和3年8月18日（火）・19日（水）
- ・ 受講者数：14名
- ・ 認定者：14名
- ・ 開催場所：E館701-702

(5) 学生の国際交流活動

- a. コロナ禍のために留学や海外研修は全体的に不活発とならざるを得なかったが、2020年度末からの連続で4月までカナダの協定校の教育学部にオンライン留学をした学生がいた。学部留学は高い語学力が必要なため、30年余りの富山国際大学の歴史の中でこれを達成できたのは2人だけであり、子ども育成学部では初めてのことだった。
- b. 後期に合同の「教養演習」を開催し、1～2年生全員が現代社会学部の留学生や子ども育成学部で留学や海外研修や県内での国際交流を経験した学生の体験談を聞いた。
- c. 「世界の言語と文化」の授業において6人の外国出身者を講師として招き、それぞれの国の言語・文化・社会・教育に関して交流学习をした。加えて、とやま国際センターから国際交流イベントへの招待があり、それに出席して日本在住の外国籍の人々が経験していることについて学んだ。
- d. 英語サークルを母体とする夢の懸け橋事業「コミュニケーションハウス」を環日本海交流会館と大学コンソーシアム富山(CiC5階)で開催し、タイとベトナム出身の母親を含む計11組の親子の参加があった。英語だけではなく中国語とベトナム語と日本語を使って交流するイベントであり、主催者側には現代社会学部の留学生が参加した。

(6) 学生の地域貢献活動

コロナ禍のもと、日常生活の様々なことが制限されたため、地域でのサークル活動等も極めて厳しい状況となった。

例えば、「ちょっこ おいでま こども食堂キャンパス」は、計3回（10月, 11月, 12月）のみ、こども食堂を開催した。開催できない月は、コロナ禍での差別や偏見をなくするためのシトラスリボン運動を県内に呼びかける等、リボン運動を行った。

2 課題 <国際交流・地域貢献>

(1) 子ども育成フォーラム

子ども育成フォーラムは、ひとづくり財団の助成金が2019年度から大幅な減額となったため、Webを活用した案内、申込等により、パンフレットの発送、申込用紙の印刷物作成は必要最小限としている。2021年度は対面の講演会およびワークショップを再開できた。

(2) 高校出講プログラム

依然として、コロナ禍という状況が続くと思われるため、感染症対策に十分留意し、創意工夫を凝らしながらの実施を各高校と相談しながら進めていきたいと考えている。

(3) 地域出向プログラム

依然として、コロナ禍という状況が続くと思われるため、主催者と感染症対策に十分留意するとともに、創意工夫を凝らしながら、研修会、勉強会、講演会を実施していきたいと考えている。

(4) 令和3年度教員免許状更新講習

対面授業が再開できた。今後は、この講習の存続に関しての政府の決定を待たねばならない。

<研究活動>

1 実績と現状

(1) 子ども育成学部紀要 第13巻

第1号(2021年10月号)で2篇、第2号(2022年3月号)で4編、計6篇の投稿があった。投稿者は、学部専任教員延べ8名だった。

第1号【論文】大藪敏宏「市民的利益の調整と統治権の偶然性—ヘーゲル法哲学における官職をめぐる偶然性とアルノルト事件—」

【研究ノート】彼谷環・大平泰子・竹田好美「乳幼児期における市民教育導入の可能性」

第2号【論文】大藪敏宏「公共的意識と立法権の偶然性—ヘーゲル国家哲学における議会と政治的生活の偶然性—」

金子泰子「4歳児におけるボール投げ動作習得のための投げ運動遊び実施の効果について」

福島美枝子 Verbal Interaction in the Primary EFL Classroom:
A Review of Some Recent Studies.

【研究ノート】村上 満「富山国際大学ちよっこおいでまこども食堂キャンパスにおける学生主体の取組と今後の課題に関する研究(第1報)」

(2) 助成研究への取り組み

①文部科学省学術研究助成基金(科学研究費補助金)

<基盤研究(C)>

金子泰子「体力と運動有能感が継続して低い児童の受容感を高め問題解決を図るための実証研究」(研究分担者:2022~2024年度)

相山 馨「家族介護者ケアマネジメントツールの開発と包括的家族介護者支援システムの構築」(研究代表者:2019~2021年度)

大平泰子「デートDVの発生メカニズムの解明と個人特性に基づく予防教育プログラムの検討」(研究分担者:2019年度~2022年度)

石倉卓子「保育施設の狭小な園庭を活用する保育者の資質向上プログラムの開発」(研究分担者:2020~2022年度)

竹田好美「保育施設の狭小な園庭を活用する保育者の資質向上プログラムの開発」(研究分担者:2020~2022年度)

<挑戦的研究(萌芽)>

佐部利典彦「アート思考を活かす社会システムの構築~日英のアーティストインレジデンス研究~」(研究代表者(新規):2021~2023年度)

②(財)富山第一銀行奨学財団助成研究

大藪敏宏「偶然と社会—ヘーゲル社会哲学研究」

③学長裁量経費(子ども育成学部の教員が申請者(代表者)である研究)

金子泰子「幼児期から大学生年代における体力・運動能力向上プロジェクト」

宮田 徹「東黒牧キャンパスの森づくりによる自然環境を生かした教育・保育の展開」

松山友之・辻井満雄・福島美枝子・彼谷環・新森昭宏・金子泰子・岩崎直哉「GIGAスクール

構想に対応した ICT の活用指導力を高めるための教職課程の在り方」

松山友之・金子泰子・岩崎直哉「子ども育成学部の学校教育分野に関する教職課程の在り方」

佐部利典彦・明柴聰史（短大）「幸せな時間を創出する試み」

（３）FD 研修会

- ① 2021 年 5 月 19 日 全学 FD・SD 研修会：「自己点検・評価の取組みについて」（宮田学部長）、
「Teams を使った便利な授業のすすめかた」（上坂教授）
- ② 2021 年 8 月 4 日 全学 FD・SD 研修会：「組織改編について」（高木学長）、「新型コロナ感染
にかかるとの初期対応について」（高木学長）、「Google スケジュールの利用と共有方法」（上坂
教授）
- ③ 2021 年 9 月 29 日 子ども育成学部 FD 研修会：「Teams の利用と授業の録画や stream へのア
ップ」（上坂教授の講演とグループワーク）
- ④ 2022 年 2 月 16 日 子ども育成学部 FD 研修会：「学生参加による授業改善のための F D」（松
山）※授業評価アンケートのコメント活用
- ④ 2022 年 3 月 16 日 全学 FD・SD 研修会：「個人情報の取り扱いについて」（彼谷教授）、「デ
ィプロマポリシーの見える化に向けての取組み」（酒井課長）、「ハラスメント防止に向けて」
（大谷学部長）

（４）学生の研究活動

「富山国際大学子ども育成学部小学校教育研究学会」は、在学生と教育現場で活躍している諸先輩や諸先生方との交流に努めている。「現場の校長先生から学ぶ会」を 1 回、OB との集団討論練習会（教採向け）を 4 回、「生活科総合教育学会（富山県支部）」の勉強会への参加を 3 回行った。

2 課題 <研究活動>

- （１）学部紀要への投稿数は、2018 年度まで 11 篇から 24 編までの幅で推移し、平均は約 15 編だったが、2019 年度に初めて 10 篇を切り、2020 年度は 6 篇にまで減った。2021 年度はこの数字を維持した形だが、依然として学部紀要の存続が危ぶまれる状態である。
- （２）文部科学省学術研究助成基金（科学研究費補助金）による研究に関してはやや持ち直した感があり、新規採用も 1 件あった。学長裁量経費による研究への応募状況は活発であり、共同研究への意欲も見られる。富山第一銀行助成研究への応募者は少なかった。
- （３）再開が望まれていた研究サロンが 2 度実施されるという喜ばしい年度だった。FD/SD 研修会はオンラインが導入され、2020 年度と同様に回数が多く活発な印象だった。
- （４）コロナ禍の中でも「小学校教育研究学会」は卒業生を含む現場の先生方との交流を軸にして活発に研修活動が続いている。また、実践的な学びの場である小学校の理科や英語の授業での補助活動（県教育委員会の事業）も、従来と同様の派遣実績となった。

Ⅲ 学生支援・キャリア支援

< 学生支援 >

1 実績と現状

(1) 新規の取り組み

大学施設内で感染症対策を施した上で実施できる新たな形態の学生交流行事、新入生歓迎行事を学生主体で企画し、実施した。

(2) 現状 (1=1年生、2=2年生、3=3年生、4=4年生)

コロナ禍で大変苦勞したが①と②を合同開催とし、2年生が主体となって、オリエンテーションと交流を兼ねて大学内で実施できる活動を実施した。担当の2年生が内容を工夫して素晴らしい交流会となった。③については中止となり④～⑬については、規模を縮小しながら感染対策を施して実施することができた。

① 学部交流会 (1234) 呉羽キャンパス内

② オリエンテーション交流 (12) 呉羽キャンパス内

(予定していた国立能登青少年交流の家の合宿は実施できなかった。)

③ スポーツ文化交流会 (1234) 東黒牧キャンパス(運動系・文化系) (※中止)

④ 学友会の運営支援 (1234)

総会、七夕祭、オープンキャンパス、クリスマス会、音茶会「なごみ会」

⑤ 大学祭実行委員会の運営支援

⑥ 大学祭 (第10回仁友祭) の開催

教養演習ゼミ別企画イベント (1234)、模擬店 (1234)

⑦ クラブ・サークル活動への支援 (1234) 運動8・文化12 計20サークル

(運動系) 女子軟式野球 (短大と合同)、SPORTY、ダンス、バスケットボール、バドミントン、バレーボール、フットサル、陸上競技

(文化系) 吹奏楽部、アカペラ、イラスト、SSW・BBS研究会、書道、Tuins English Club、TIES (富山国際大学小学校教育研究会)、

保育サークル～にこにこ～、学生団体MUL、茶道、軽音楽、歩いて発見!となみ野サマーチャレンジ

⑧ 富山国際学園関連施設 (みどり野幼稚園、にながわ保育園) での継続的ボランティア活動の実施、保育サークルにこにこ

⑨ カウンセリング及び適応困難学生のための適応支援チーム: 随時実施

⑩ 防災訓練 (1234)

⑪ 交通安全講習会 (1234)

⑫ 学友会との懇談会 (学友会と教職員) 1回実施 (R4.2)

⑬ 「夢への架け橋事業」への応募・実施 (1234) 4件

ア 『松山ゼミでの活動「つながり!発見!地域で子どもたちと新たな学びを!」(助成額100,000円)

イ 「Communication House (みんなの家): Your Place, My Place, Our Place」(助成額82,152円)

ウ 「小学校体育授業サポート」(助成額 192,658 円)

エ 「TUINS プログラミング教育研究会」(助成額 300,000 円)

2 課題 <学生支援>

(1) 学生駐車場不足の問題

慢性的に、学生の駐車場については少ない状況が続いている。民間の駐車場の利用も含めようやく駐車可能な状況にある。さらに平成 29 年度末から始まったみどりの幼稚園の改築工事のため、厳しい状況が続いた。呉羽キャンパス全体的に短大、大学ともに駐車場不足が不足している。特に授業時間の関係で一時的に駐車できないこともある。慢性的な駐車場不足への対応が望まれる。

(2) 学生の支援体制について

健康管理センター、相談員、学生支援担当教員との情報交換の機会をとり、支援や配慮が必要な学生の情報が、学生支援担当教員に集約されて、迅速に対応を検討する体制を整備したため、以前よりも学生に迅速に対応できるようになっている。今後は、個人情報保護の視点も重視しながら、学生への迅速な支援の体制を、教職員間でさらに共通理解していく必要がある。

<キャリア支援> (資格取得・就職)

1 実績と現状

(1) 授業としてのキャリア支援計画

1 年次から 4 年次までのキャリア関連講座(正規科目)を分野(小学校教育、保育・幼児教育、社会福祉、一般企業)ごとに立案、実施した。

キャリア入門講座(1 年次担当・後期)は、現場の専門家や OB・OG による特別講義を開催した〔保育分野(11/29)・社会福祉分野(12/6)・小学校分野(1/17)〕。キャリア支援講座 I (2 年次担当・通年)、キャリア支援講座 II (3 年次担当・通年)、キャリア支援講座 III (4 年次担当・通年)では、分野ごとに異なる就職採用時期を前提とした決め細やかなシラバスを作成、実施した。

(2) 就職状況の周知と支援

学生の就職活動状況が変化するごとに、学生自身が Microsoft Forms「2021 就職活動状況」(キャリア支援センター管理)に入力する、というシステムに変更し、月末には、教員がゼミ生の就職状況を確認して、翌月の定例教授会にてキャリア支援センターから全教員に進捗状況を周知した。その際、個人情報に配慮しながら必要最低限の報告とした。活動終盤で進路変更する学生や、年度末に就職条件を満たせなくなりそうな学生に対する特別な支援が必要となった場合、ゼミ担当教員との連携を取りながら、本委員会全体で支援策についての情報を共有することを心がけた。

(3) 資格・免許希望調査 (R4 .2/8~18)

保育所実習 I の名簿を 3 月中に市町村へ提出する関係上、新 2 年生のキャリア支援講座 I の分野別希望調査、取得希望の資格免許の調査を、Microsoft Forms で行い、新年度の準備に必要な部署に情報提供を行った。

(4) 公務員・教員採用試験対策講座 (R4.3/23～30 実施)

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、富山短期大学とも足並みをそろえ「オンデマンドによる講義の視聴」および「質問・回答はメールのやりとりで行う」という方法で 6 日間実施した。当初辞退者が多く出たが、呼びかけにより、50 名以上の受講者となった。時間に縛られない、何度も受講できる点は学生に好評であった。値段の交渉が必要。

(5) 模擬試験の実施

小学校教諭希望 3 年生対象 (時事教育出版局：一般教養・教職教養 R3.6/10・専門科目 R3.6/17) 及び (一般教養・教職教養 R3.11/15・専門科目 R3.11/22)、4 年生対象 (一般教養・教職教養 R3.4/19・専門科目 R3.4/26)

幼稚園教諭・保育士・保育教諭希望 3 年生対象 (実務教育出版：一般教養・教職教養 R3.5/27、専門教養 R3.6/3)、4 年生対象 (一般教養・教職教養 R3.4/26、専門教養 R3.5/10)

社会福祉士希望 3,4 年生対象 (中央法規 R3.8、日本社会福祉士会 R3.10、社会福祉士養成校協会 R3.12)

(6) 小学校分野の就職に関する懇談会 (R3.2/28)

富山県東部教育事務所荒田次長、富山県西部教育事務所松本次長を本学部にお招きし、小学校教員養成の担当者と学部のキャリア支援センター委員が参加し、懇談を行った。

近年、本学の合格者が増えてきており、期待の大きさを感じた。また、質の高い教員が望まれている。高校訪問などで卒業生と一緒に教員志望の学生を発掘する、増やすことの必要性や、卒業生が母校の高校へ説明に向くことも考えていく必要がある。

(7) 各分野の採用状況・採用試験問題等の整理

昨年度に準じ、今年度の小学校教員・幼稚園教諭・保育士・保育教諭・社会福祉士の採用状況及び受験状況を各市町・事業所ごとにまとめ、面接・筆記試験等の内容を整理した。

(8) 福祉のお仕事フェア in TOYAMA への参加

富山国際会議場にて、コロナ対策を講じ、福祉・介護分野 (R3.7/18) では 4 年生 2 名の学生が、児童分野 (R3.7/25) では 4 年生 10 名が参加した。

(9) 学内企業研究会への参加

東黒牧キャンパスで行われた「学内企業研究会」に、一般企業を希望する学部生 6 名が参加した (R4.2/14、2/15)。

(10) 自主研修 (インターンシップ)

将来の進路に備え自主的に研修を行う「自主研修」の学年別内訳は、4 年生 (8 名)、3 年生 (13 名)、研修先は、小学校 1、保育・幼児教育施設 12、地域包括支援センター 3、障害者支援施設 1、病院 2、特別養護老人ホーム 1、NPO 法人 1、森林組合 1 であった。

(11) 「労働法セミナー」の開催 (R4.9/28：後期オリ)

昨年度に続き、3 年生を対象に富山労働局出前講座「労働法セミナー」を開催した。コロナ感染防止のため、4 教室に分かれて zoom によるオンライン開催とした。労働基準監督官らによる労働者のための法律についての基礎知識、求人票の見方について講義を受けた (89/103)。実習中の学生へのフォローのため、Microsoft Stream に動画をアップした。

(12) その他

①小学校で理科実験の準備や後片付け等を行う「観察実験アシスタント」には、45 名 (内 1 名未配置、1 名辞退) の学生が登録し、43 名 (兼務 7 名) が延べ 50 校ので勤務した。。

- ② 「富山に学ぶインターンシップⅠ」には3年生14名が、「富山に学ぶインターンシップⅡ」には4年生28名が履修参加した。
- ③ 小学校で英語活動を支援する「英語学習パートナー」（県教育委員会の事業）には、本学部から朝日町1校、射水市2校、高岡市3校、南砺市3校に、計延べ9名を派遣した。
- ④ 保育分野では、みどり野保育サポーターには、前期に、4年生1名、3年生7名、2年生4名が6月から開始、後期に、3年生4名、2年生3名が12月から開始した。3年生2名、2年生2名は通年で参加した。前期後期共に、感染状況を見ながら実施時期を相談し、1か月遅れの開始となった。1クラス1名まで、との規制もあった（以前は2名まで）。にながわ保育サポーターには、2年生1名が6日間、3年生が延べ23名、4年生1名が28日間、西田地方保育サポーターは、3年生延べ64名、4年生延べ15名であった。コロナ禍により森の活動や誕生会等の行事ボランティアは中止となったが、過去最高の数値となった。これは、2年生も10月から「保育サークルにここ」のメンバーとなったこと、意欲的な3年生が多かったこと、当園就職希望の4年生が多かったことが挙げられる。「有償ボランティア」制度が整い、利用する学生も増えてきている。
- ⑤ 富山県主催の全学年対象「保育所・認定こども園見学バスツアー」には、1・3年生数名が参加した。ただし、授業を欠席しての参加となる。

2 課題 <キャリア支援>

- 今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止に努め、対面授業から始まったが、就職指導から採用試験までの一連の就職支援についても、キャリア支援委員会と全教員との情報共有のもと、その時々で最善の方法を模索し、きめ細やかな対策指導を心がけた。
- 保育分野は、1年生からの早い段階による見学、コロナ感染が収束しているタイミングを逃さない就職活動が必要である。また、実習評価より、コミュニケーションや生活能力などの社会人基礎力の低下が感じられるため、自主研修（インターンシップ）等におけるキャリア形成について現場との協議に努める必要がある。なお、保育士資格履修漏れ1名については、保育士試験受験時に試験科目免除で対応することとなったが、引き続き、各期オリや分野教員の授業等で履修確認を行うと共に、わかりやすい学生便覧作成を行う必要がある。
- 社会福祉分野では、社会福祉士国家試験受験対策のトレーニングが遠隔で実施することとなり指導に困難を極めたが、よりきめ細やかに指導方法を工夫し、例年並みの結果を出すことができた。来年度からは、カリキュラムの改正に伴い、より社会福祉士志望学生の受け入れ人数を絞った形で取り組む。そこで、キャリア支援センターと連携し、進路選択に資する情報や指導を早めに提供し、1年次から進路を見据えられるような現場での見学や体験も並行して行う必要がある。
- 小学校分野では、半数程度が実習日程延期となり、介護等体験では3名が代替措置で対応することとなった。1・2年生の段階から現場に出る機会を確保、長いスパンでキャリア形成を行う必要がある。
- 全分野において、就職指導への難しさがあり、就職率への影響も懸念されていたが、「学生一ゼミ担当教員—キャリア支援委員会」の関係性を密にし、精神的支援に力を入れたことから、昨年同様高い就職率を維持することができた。次年度も関係者全体で就職支援にきめ細やかな対策を講じる必要がある。

令和3年度卒業生（96名）の進路状況（令和4年3月18日現在）

小学校教育分野 39 小学校教諭・講師	保育・幼児教育分野 28 保育士・幼稚園教諭	社会福祉分野 12 社会福祉士・相談員等
富山県公立学校教員(小学校) 36 新潟県公立学校教員(小学校) 1 富山県公立学校講師希望 2	富山市保育士 3 砺波市保育士 射水市保育士 上市町保育士 黒部市保育士(会計年度任用) 富山国際学園福祉会 4 富山城南会 2 出町青葉幼稚園 坂ノ下福祉会 吉島保育園 南部福祉会 白藤幼稚園 ジェイエイ氷見みどり会 わかくさ福祉会 浦山学園福祉会 魚津保育会 めぐみ福祉会 堀岡保育園 いちい保育園 なでしこ保育園 アソカ幼稚園 藤ノ木こども園	[縣市町] 神奈川県庁(社会福祉士) 富山県庁(社会福祉士) 富山市(社会福祉士) [障害福祉施設・事業] 射水福祉会 3 手をつなぐとなみ野 [高齢者施設・事業] 舟見寿楽苑 城南会 [児童福祉施設・事業] 生活クラブ風の村 [病院] 富山県立中央病院(社会福祉士) [社会福祉事業団] 東京都社会福祉事業団
企業等 5		
富山県生活協同組合 アルコット㈱ ㈱クスリのアオキ SOMPO ケア㈱ 社会労務士法人 LaLa コンサルティング		
公務員等 4	進学 8	
南砺市職員 射水市職員 富山県警 国立立山青少年の家(臨任)	富山大学大学院 上越教育大学大学院 6 慶応大学大学院	

■主な試験等の結果（既卒者含む）

公立学校教員（小学校）50名合格（うち既卒者10名）
 （※現役合格40名中、3名は大学院への進学を選択、そのため上記の表には37名と表記）
 富山県内市町村保育士 7名合格（会計年度任用者含）

■複数免許・資格の取得

(1) 1人当たりの法定免許・資格(小・幼・保・社(受験資格))取得数:

4種類＝2名 3種類＝33名 2種類＝36名 1種類＝18名

(2) 資格・免許取得のべ数:

- * 小学校教諭一種免許状: 66名 (68.7%)
- * 幼稚園教諭一種免許状: 68名 (70.8%)
- * 保育士資格: 42名 (43.7%)
- * 社会福祉士(国家試験受験資格): 23名 (23.9%) うち合格者 16名(受験者21名)
- * 社会福祉主事任用資格: 94名 (97.9%)
- * スクールソーシャルワーク教育課程修了: 5名 (5.2%) うち認定者 4名

IV 入試・情報発信

<入試>

1 実績と現状

令和4年度入学志願者数は例年並みの267名、入学者は97名(定員90名)であった。近年、普通科単独校からの入学者数は安定しており、入学者の中には担任の先生や保護者の勧めがあったことを進学理由にあげる学生が多くなっている。この傾向はここ数年顕著であり、学生の質がかなり向上している。これは本学部の小学校教員採用試験や社会福祉士国家資格の高い合格率、公務員としての就職率の高さが、県内の高校の進路担当や保護者の本学部に対する信頼につながった結果であるとともに、本学部に対する強い期待の表れであるといえる。また、3年次編入生は2名であったが、これは富山短大幼児教育学科から1名、健康福祉学科から1名の編入生であり、学園内連携の効果である。

しかし、目的が不明確なまま入学・編入学し、入学後も意欲的になれない学生がいる状況もある。学生が充実した学生生活を送り、学業に専念できるように、選抜方法に関して基準の見直しを図るとともに、本学部を志望する高い動機と意欲がある入学者の確保に向けて入試種別を見直す必要がある。

(参考) 平成2～令和2年度入試の状況

	募集人員	志願者	合格者	入学者	備 考
4年度入試	90名	267名	199名	97名	推薦・一般・特別奨学生・センター試験利用型
3年次編入学	5名	8名	2名	2名	3年次編入学
3年度入試	90名	320名	223名	104名	推薦・一般・特別奨学生・センター試験利用型
3年次編入学	5名	9名	7名	6名	3年次編入学
2年度入試	90名	276名	185名	89名	推薦・一般・特別奨学生・センター試験利用型
3年次編入学	5名	6名	4名	4名	3年次編入学
元年度入試	90名	270名	197名	99名	推薦・一般・特別奨学生・センター試験利用型
3年次編入学	5名	5名	3名	3名	3年次編入学
30年度入試	90名	247名	177名	91名	推薦・一般・特別奨学生・センター試験利用型
3年次編入学	5名	4名	4名	4名	3年次編入学
29年度入試	80名	265名	195名	116名	推薦・一般・特別奨学生・センター試験利用型
3年次編入学	5名	4名	4名	4名	3年次編入学

2 課題 <入試>

- (1) 受験生のニーズや実態を把握し、入試種別や合否判定基準の見直しを図る。また、編入生の判定に関しても学生生活や学業が十分にできるかどうかを適切に判定できるようにする。
- (2) 学部の将来構想を踏まえ、学部の魅力を十分に情報発信し、目的意識が明確で意欲的な受験生が積極的に応募するようにする。

＜情報発信＞ 「後援会・家庭連絡」

1 実績と現状

(1) 後援会総会・個別相談会

R2.6の後援会総会はコロナ禍により中止になり、個別相談会も開催されなかった。

(2) 大学祭・保護者懇談会

R2.10の保護者説明会は中止にしたが、保護者懇談会を10/19～10/23に開催し、懇談が不都合な保護者に対しては柔軟に対応した。18名の希望者及び学部からの召喚者に対して、個別の相談会を実施し、各ゼミ担任が対応した。

(3) 保護者あて「学生の皆さんの概況について」の送付

R2.5に第23報、R2.9に第24報を送付して、学部の概況、各学年の学生の状況、家庭への要望事項などを記した資料を配布した。執筆は、学部長及び各学年演習担当者。

※別紙「第23報」及び「第24報」を参照

(4) その他家庭との連絡・保護者面談など

学業成績や学習態度、欠席多数などの問題、休学や退学、学外実習許可の履修要件に抵触する学生などの保護者について、適宜ゼミ担任または適応支援チームが個別面談の機会をもち、家庭への状況説明と情報収集、連携協力依頼などを行った。

2 課題 ＜情報発信＞

(1) 家庭との連絡・協力の一層の緊密化

現状では、問題発生への対処として個別相談を実施しているが、問題の予防的な意味からも、教員間の状況共有や平常時からの家庭との連絡・協力をより緊密にしていく必要がある。

(2) 相談記録の集約・保存・引き継ぎ・活用

家庭との相談の記録、学生の状況記録などは、各ゼミ担任個人レベルでの整理・保存にとどまっており、記録の作成・引き継ぎなどについては、記録用の様式について、学部として一定の書式が確認されたが、完全なルール化と円滑な運営までには至っていない。しかし、健康面で配慮が必要な学生について、健康センターとの情報共有がより一層行われるようになり、学生への支援が充実してきた。

既存の「学生に関する調書」と一体化した上で、一括管理して、記録、保存、閲覧、引継できるようにしていく必要がある。

V マネジメント体制

1 実績と現状

(1) 子ども育成学部アクションプランの策定

全学の中期5か年計画（2018～2022）であるアクションプランに対応して、令和3年度の子ども育成学部のアクションプランを策定し、学部内各部署の新規・重点事項を設定した。

(2) 新型コロナウイルス感染対策下での教学・キャリア支援

① 学生の活動支援の工夫

コロナ禍のため学友会・サークル活動・同窓会活動は制約を受けたが、感染状況に鑑み開催方法も工夫しながら、大学祭をはじめとする学生生活活動を行うことができた。

② キャリア支援の充実・体系化

4年間を通じ体系的に展開している「キャリア入門講座」、「キャリア支援講座Ⅰ」、「キャリア支援講座Ⅱ」、「キャリア支援講座Ⅲ」も、コロナ禍のため対面と遠隔を適宜用いて実施した。一般企業向けキャリア支援も、イベントについては両キャンパス同時配信を行うなど強化し、就活状況は学生自らが入力するシステムを導入した。授業外の面接練習・作文添削、公務員・教員採用試験対策講座などもオンラインを利用するなど適宜対応した。

③ 研究・交流事業（子ども育成研究交流センター）の強化

新型コロナウイルスの感染防止のため、フォーラムが年度の終わりの3月に開催になってしまった。内容は、コロナ禍における対応としての的確であった。

(3) 「子ども育成学部の教育課程」の一部変更

① 社会福祉士養成カリキュラムの見直し

令和2年3月の社会福祉士介護福祉士学校指定規則及び社会福祉に関する科目を定める省令の改正により、令和3年4月より新社会福祉士養成課程カリキュラムを開設した。

また、ソーシャルワーク演習やソーシャルワーク実習指導についても、富山国際大学子ども育成学部授業科目に関する規定第4条1項に定められた単位数（講義及び演習科目については15時間の授業をもって1単位とする）に令和3年4月より変更した。

さらに、令和2年5月27日の学則改正により、令和3年度入学生から適用される富山国際大学保育士養成課程においては、「幼児理解」（2年次：演習2単位）を「児童福祉法施行規則6条の2第1項第3号の指定保育士養成課程施設の就業教科科目及び単位数並びに履修方法」（平成13年厚生労働省告示大98号）別表第1による教科目「子どもの理解と援助」（演習1単位）として読み替えた。

② 教職課程及び指定保育士養成課程の教科目等の変更申請

幼稚園教諭の教職課程において、令和4年度末までに「領域に関する専門的事項」の5領域科目（健康、人間関係、環境、言葉及び表現）を開設して認定を受ける必要があり、

「子どもと健康、子どもと人間関係、子どもと環境、子どもと言葉、子どもと表現」を充当した（文部科学省より、令和4年2月「対応完了」の通知を受けた）。これに基づき、保育士養成課程の「子どもと自然」を「子どもと環境」に名称変更を行い、令和4年3月、富山県・富山市に受理された。

また、学部カリキュラムの整理統合を行うため、「幼稚園教育実習Ⅰ」を「幼稚園教育実習Ⅱ」に統合し、「幼稚園教育実習」に一本化した（「幼稚園教育実習指導Ⅰ」も同様の措置）。

さらに、小学校教諭の教職課程において「情報通信技術を活用した教育の理論及び方法」（1単位以上）の履修が義務付けられ、令和5年4月までに開設する必要が生じたため、「教育とICT」（2単位）の新設手続きを行った（令和4年度から開講）。

2 課題

（1）アクションプランの実施とPDCAサイクル化

アクションプラン（全学・学部）と、それとの関連で学部各部門の行動計画や重点的に取り組む事項についても、確実に実施してPDCAサイクル化していかなければならない。

（2）次期アクションプラン（2023～2027年）の構想に向けた動き

コロナ禍や少子化の影響を受け「大学」への期待と願いが変容する中、学園全体の将来構想と並行しながら、本学部の中・長期的な構想に向けた動きが必要である。

（3）子ども育成学部内部の情報共有と実習環境の整備

学生にとって「質のよい学修」の確保と満足度については、学生・教員・職員の三者による情報交換とその実現のための方法を継続的に検討していく必要がある。そのためにも、実習事務の配置に代表されるマンパワーの確保が必要である。

1. はじめに

日頃のご理解ご支援、感謝申し上げます。

開設13年目の子ども育成学部は、入学者累計1,211名、卒業生総数789名、2021年度定員充足率106.5%となり、学生同士が切磋琢磨する環境が整っています。入学定員90名(3年次編入学定員5名)として4年目になりました。今後は、共存・共生の精神と知性を磨く教育を一層推進してまいります。

学部と学生の皆さんの概況についてお知らせします。保護者の皆様方には、大学での学びと生活についてご理解いただき、ご家庭での懇談や指導などのご参考にしていただければ幸いに存じます。

2. 学生・教職員の現況(2021年度始めの現況)

- ・ 学生 1年生104 2年生90 3年生103 4年生97 合計394名
(内訳) [男子82:女子312] [富山381:新潟6:石川5:福井1:滋賀1]
- ・ 教員 専任18(教授10・准教授4・講師4)、学园内兼任6、非常勤講師36、合計60名
- ・ 職員 専任事務3、兼任事務4、契約参事1、派遣事務1

3. 第9期卒業生(114名)の就職・進学状況(2021.5.1現在)

- ・ 就職率100% 小学校教諭37(うち講師5)、保育士・幼稚園教諭32、社会福祉職22、企業11、公務員等4、大学院5
- ・ 資格/免許 小学校教諭69 幼稚園教諭85 保育士66 社会福祉主事任用資格113
社会福祉士18(受験資格22・合格18(合格率全国15位・全国私大で3位))スクールソーシャルワーカー5

4. 2021年度の取組み

- ① 新型コロナウイルス感染症への対応として、遠隔授業を実施することがあるため、インターネットに繋がりにくい学生には、モバイルWi-Fiを貸出しています。対面授業の再開に合わせ、検温器(後援会からの寄付)等の整備や、座席配置の改善、室内換気の徹底など、徹底した感染防止対策を講じています。
- ② 新型コロナウイルス感染症の影響により活動が制約される中、小学校や保育所・幼稚園・認定こども園、福祉施設での実習やインターンシップのほか、小学校支援活動として理科実験アシスタントや英語学習パートナーにも多くの学生が参加しています。
- ③ 授業・行事や学生生活の様子が分かるよう、大学ホームページの掲載に取り組んでいます。
(<https://www.tuins.ac.jp/>)

5. おわりに

子ども育成学部は、「明日を担う子どもの育成を通して、地域に貢献できる人材の養成」を目的として、学生の皆さん一人一人の夢「なりたい自分」を叶えるための教育・研究に努めています。これまでの教育実績も、高く評価され、注目されています。

今年度も、学生の皆さんの強い意志と自己向上努力を軸に、保護者の皆様方と共に歩んで参ります。今後ともご理解ご協力くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

(子ども育成学部長 宮田 徹)

* 個別相談についてのお知らせ

- ・ 昨年に引き続いて、集会形式での後援会総会が中止になりました。保護者懇談会は期間を設定して「対面、Zoom、メール、電話等の選択制」にて実施します。ゼミ担当教員との個別相談を希望する場合は、別紙「保護者懇談会」開催案内記載の方法にて、ご連絡ください。

「大学生」という立場になって、4月から新しい生活がスタートしました。今年度は、今のところ対面の形式を基本にして授業を実施しています。1年生の皆さんには、先輩の姿に学びながら、それぞれの目標を模索し、将来の進路を見定めていくことを期待しています。

1. 富山国際大学で学ぶために

- ・ 4月のオリエンテーションでは、学部の教育理念・目標、年間計画、教育課程・学年暦・行事予定、資格・免許などについて説明を行いました。
- ・ 初年次教育として、学長特別講義を実施しました。学園の理念「知性・教養・個性」と大学の基本理念「共存・共生」を理解し、本学学生としての自覚を深め、勉学意欲の向上を促すと共に、「大学で学ぶとは」についても指導しました。

2. 授業など学習面について

- ・ 毎日の授業では、1コマ90分、夕方6時まで、毎時間の出席確認などにも慣れてきたようです。大学で学ぶためのリテラシーガイダンスとして、『教養演習ガイドブック』などを教材に、ノートのとり方やレポートの書き方、実習や研究の実施にあたって大切な守秘義務、研究の進め方と統計学の基礎などについて指導しました。2年生の先輩の経験談とともに、高校との違いを乗り越える力となればと期待します。なお、7月には、ゼミごとに取り組んでいる活動や調査などの成果を発表する「教養演習ゼミ別活動合同発表会」を行う予定です。
- ・ 8月上旬に期末試験、夏季休業期間は8月中旬から9月下旬となっています。

3. 生活面について

- ・ 教養演習（教養ゼミ）で教員や学生の交流機会を設けるなど、新入生が大学生活に馴染めるよう工夫しています。また、大学生活が順調に滑り出せるよう、ゼミ担当教員、事務職員、健康管理センター、カウンセラーなどが連携しながら適応支援に努めています。
- ・ 日々の授業への集中、規則正しい生活習慣と生活リズムの確立など、ご家庭でもご指導をお願いいたします。また、アルバイト等に貴重な時間を過度に割いて、折角の大学時代の意義が犠牲にならないよう、ご理解の程お願いいたします。

4. 就職等キャリア支援について

- ・ 後期に、社会人・職業人としてのキャリア形成のための「キャリア入門講座」を開講します。小学校教諭、幼稚園教諭・保育士、社会福祉士として第一線で活躍している先生方をお招きして、教育・保育・福祉の現場の話を学生が直接聴く機会も設けます。子ども育成の職場と専門職への理解を深めながら、資格免許取得への動機付けや、今後に向けて学習への意欲を高めることを目的としています。

5. 学校行事等について

- ・ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、例年と同じように行事を実施することは難しい状況です。しかし、このような状況でもできることを模索し、2年生の実行委員が企画・運営を行って新入生歓迎会を開催しました。教養演習の時間を活用してゲームなどの様々な活動を行い、2年生と1年生との交流を図ることができました。

□ 保護者の皆様には、今後とも一層のご理解ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2年生に進級して後輩ができたことで、授業において頼もしく活動する姿が見られます。一方、後輩に助言することの難しさも同時に体験しているようです。このような経験を糧に、一人ひとり着実に成長していくことを願っています

1. 授業など学習面について

- ・ 2年次から、教育分野、保育分野、福祉分野の専門科目の授業や実習指導が本格的に始まりました。
- ・ 「教養演習」では、1・2年生合同で後輩と学び合い、改めて大学生活の基本を確認しました。今後は、7月の「ゼミ別活動合同発表会」に向けて、ゼミごとにテーマを決めて活動や調査などに取り組み、1年生をリードしながら成果をまとめていきます。
- ・ 保育士資格希望者には、9月の学外実習「保育所実習Ⅰ（0～2歳児）」に向けて、事前指導を行っています。また、11月の「施設実習Ⅰ」に向けての準備も進めています。
- ・ 社会福祉士をめざす学生が「相談援助技術」を学ぶための演習も始まりました。具体的な援助場面を想定した実技指導で、専門的な技術とともにキャリア意識も深めていきます。

2. 就職等キャリア支援について

- ・ 「キャリア支援講座Ⅰ」では、各分野の仕事への理解を深めたり、採用試験の概要を学んだりしています。この講座等を通して、進路を決定し希望を実現できるよう支援していきます。分野選択の悩みなどについては早めに遠慮なくお尋ねください。

3. 生活面について

- ・ 自家用車通学者には事故防止のための注意を喚起しております。特に交通安全についてはご家庭でもご留意をお願いいたします。
- ・ 授業に欠席しがちな学生は、進路の迷いや友人関係の悩みを抱えている場合があります。欠席回数が多いと、実習の履修が許可されず資格免許の取得が困難になることや、期末試験の受験資格を失うことになる場合があります。ご家庭でのご支援もお願いいたします。
- ・ サークル活動は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため活動に制限がある状態ですが、新たに参加する人、リーダーとして集団をまとめる人、地域で活躍する人など、興味のある活動を通して様々なことを学ぶ機会となっていますので、自己実現を支援していきたいと思えます。
- ・ 夜遅くのアルバイトは控えるよう指導しています。基本は「学業が最優先」ですので、ご家庭でも、実情把握と適切なご指導をお願いいたします。

4. 学校行事について

- ・ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、例年と同じように行事を実施することは難しい状況です。しかし、このような状況でもできることを模索し、2年生の実行委員が企画・運営を行って新入生歓迎会を開催しました。教養演習の時間を活用してゲームなどの様々な活動を行い、2年生と1年生との交流を図ることができました。
- 2年生は、実習などを通して卒業後の進路を真剣に考え、絞っていく学年でもあります。保護者の皆様には、一層のご理解ご支援をくださいますようお願い申し上げます。

大学生活は、折り返しを過ぎて後半に入りました。卒業後の進路を決定する時期が、迫ってきたことで不安になっている姿も見られます。先輩たちを見習って地道な努力を日々続けてほしいものです。残りの学生生活が有意義なものとなるよう願っています。

1. 学外実習について

- ・ 9月には、教員免許状を取得するための「教育実習」と「幼稚園教育実習Ⅱ」が予定されています。
- ・ 小学校での教育実習に向けては、小学校で教える各教科について学習指導要領に沿った教材研究や指導案づくり、模擬授業など、主要教科目の担当教員により充実した指導が行われています。
- ・ 幼稚園教育実習Ⅱに向けては、実習を予定している幼稚園・こども園の教育目標や幼児の発達段階、実習に行く9月の幼児の生活について学びながら、模擬保育を通して指導案作成や教材研究を行ったり、実習日誌を記入したりしながら、実践力をつけています。
- ・ 社会福祉分野では、3年次の2～3月に行われる「相談援助実習Ⅰ・Ⅱ」のための演習などを積み重ねつつ、社会福祉士国家試験に向けた準備も着実にスタートさせています。
- ・ 実際の子どもの様子や教育・保育現場の仕事をもっと知りたいと、「富山に学ぶインターンシップⅠ」や「自主研修（インターンシップ）」などの就業体験を通して、小学校・保育所・認定こども園・絵本館に出かける計画を立てている学生もいます。実習では得られない体験は、深い学びとなります。
- ・ 充実した実習のためには、日常の健康管理、感染対策が大切です。ボランティア活動やアルバイトなどから得る学びもありますが、大学での系統的な学習が第一であることを忘れず、学業を最優先に考えて、生活リズムを整えていくことを奨励しています。

2. 卒業研究について

- ・ 本学では、3・4年次の2年間で卒業研究を行って卒業論文を作成するカリキュラムとなっています。4月からそれぞれのゼミに分かれて卒業研究を実施するための準備をスタートしました。なかなかテーマを絞りきれない学生が多いようですが、さまざまな先行研究を調べていくうちに、自ずと研究したい命題が出てくるはずですよ。
- ・ 3年次の後期には、卒業研究の中間発表が予定されています。研究テーマや研究計画などについてポスター発表を行います。4年次には、卒業研究に取り組んだ成果の総まとめとして、卒業研究発表会が予定されています。

3. キャリア支援について

- ・ 保育・小学校・社会福祉分野の専門職を目指す学生のための「キャリア支援講座Ⅱ」が、開講されています。小学校分野では教員採用試験対策、保育分野では公立および私立保育所・幼稚園・認定こども園の採用試験対策、社会福祉分野では真冬に実施される国家試験対策を行っています。また、3、4年生全員に【求人速報】を配信しています。
- ・ 一般企業を目指す学生には、東黒牧キャンパスのキャリア支援センターと協力して、イベントの一斉配信、合同企業訪問の引率、企業研究やエントリーシートの書き方等の指導を行っています。公務員を目指す学生には3月に課外の特別講座を提供します。

□ 最終学年につながる大事な学年です。ご家庭でも一層の励ましをお願い申し上げます。

子ども育成学部での学びもいよいよ最後の年を迎えました。4年生は、これまでに得た専門的知識と実践力を深めつつ、それぞれが描く未来に向けて着実に努力を続けていただきたいと考えています。

1. 授業など学習面について

- ・ 4年生の教育課程は社会福祉関係科目に重点が置かれていますが、卒業に必要な科目・単位、資格免許に必要な科目・単位を修得できているか、履修漏れがないよう十分に注意してください。
- ・ 資格や就職のための科目を履修するだけでなく、4年生で受講できる教養科目も複数あります。積極的で意欲的な学びが、専門職に就いてからの大きな助けとなりますので、是非活用してください。

2. 卒業研究について

- ・ 3年次に履修した「卒業研究Ⅰ」では、自ら選択した研究テーマのアウトラインを「卒研中間発表会」で発表しました。今年度の「卒業研究Ⅱ」では、温めてきたテーマをさらに深く掘り下げ、卒業論文の完成を目指します。卒業論文の提出は12月ですので、計画的に作業を進める必要があります。
- ・ 卒業論文の提出が終わると、「卒業研究要旨集」のための原稿提出、卒業研究発表会と、大切な手続きや行事が続きます。最後まで研究テーマに向き合って、4年間の学びの集大成となる研究物を発表されるよう期待しています。

3. 就職・進学・キャリア支援について

- ・ 3、4年生全員に、一斉メールで【求人速報】を配信しています。受験予定者に対する個別相談、履歴書・面接指導にも、時間をかけ丁寧に取り組んでいます。就活時は、なにかと不安定になりがちですので、是非ご家庭でも関心をもっていただき、確かな就職や進学の実現に向けて、慎重かつ適切な対応をお願いいたします。
 - ・ 小学校分野では、小学校教員採用試験に向けて、願書の作成、本番に向けた模擬試験、集団面接、採用試験直前の専門・教職教養の演習等に取り組んでいます。
 - ・ 保育分野では、市町村保育士採用1次試験をはじめ、民間からも求人が多く寄せられています。履歴書の書き方の指導、論作文の書き方の指導、面接指導などを行っていきます。また、富山県保育士・保育所支援センターと連携を密にとり、学生が直接保育・幼児教育施設の情報を得られるよう求職登録を勧めています。民間志望学生は、7月の専門職向け就活イベント「福祉のお仕事フェア」も利用して進路を固めていきます。
 - ・ 福祉職を希望する学生には、希望職種に応じて個別に指導しています。今後は富山県健康・福祉人材センターの求職者登録を済ませ、保育分野と同様に、7月の専門職向け就活イベント「福祉のお仕事フェア」も利用します。
 - ・ 一般公務員・企業を目指す学生に対しては、希望職種に応じて、専門のアドバイザーによる面接指導や就職情報の提供、採用試験に向けた支援を個別に行っています。
- 最終学年となりました。大学生として過ごす最後の1年が実り豊かで思い出深いものとなりますよう、保護者の皆様方とご一緒に支援して参りたいと存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

令和3年度も後半を迎えます。前期は、新型コロナウイルスの影響により、一部の行事を中止し、部分的に遠隔授業を実施しました。夏季休業中には、9月に予定されていた2・3年生の保育所・幼稚園・小学校での実習の多くが延期されたり、1年生それぞれが計画した地域社会参加活動が制限されたりなど、困難な状況もありました。そうした中、保育・小学校・福祉の就職試験や卒業研究に取り組む4年生、陸上競技などの部活動や自主的なボランティア活動・サークル活動などにコロナに配慮しながら取り組む学生の姿が見られました。また、オンラインの研修会参加など新しいスタイルに挑戦する学生もいました。後期は、通常の面接授業で始まり、笑顔あふれる学生と対面できることをうれしく思います。

学部と学生の皆さんの概況についてお知らせします。保護者の皆様方には、大学での学びと生活についてご理解いただき、ご参考にしていただければ幸いです。

1. 就職・進学・キャリア支援について

- ・ 4年生では、小学校教員38名、保育分野22名、福祉分野7名、一般公務員1名、企業4名の内定が出ています(10月5日現在)。この後、小学校教員は臨任講師への道、保育分野は富山市公立(富山市等)2次試験や法人保育園等の採用試験、福祉は民間福祉・医療事業所の採用試験や国家試験対策など、それぞれの目標に向かって最後の踏ん張りどころです。企業も含めて、ゼミ担当教員や各分野の教員にご相談下さい。
- ・ 3年生は、後期から「キャリア支援講座Ⅱ」を分野別に集中的に指導します。採用試験まであと半年余り。実習の成果を振り返りながら、「成りたい自分」へ対策強化です。
- ・ 2年生は、後期から専門職関連の授業が多く開講されます。日々の授業、実習の事前事後学習への専心が重要です。
- ・ 1年生は、後期から、必修科目「キャリア入門講座」を開講します。①幼稚園教諭・保育士、②小学校教諭、③社会福祉士の3分野の進路選択について学習します。3分野について、ご家庭でも十分に話し合われますようお願いいたします。

2. 学習面について

- ・ 前期(4~9月)の学業成績を同封しております。一部の学年や科目で、再試験対象者がいました。成績不振のため実習を延期する場合は、保護者の方とも個別相談をさせていただきます。日頃の学習の大切さについて十分ご理解をお願いします。
- ・ 保育士・教員・社会福祉士など子ども育成の専門家への道は、容易ではありません。実習先・就職先など社会の注目と期待は、極めて厳しいものがあります。日頃から「学びの精神」をもって、授業・予習・復習・課題などに地道に取り組むことが、確かな就職につながります。また、将来を担う人材として、大きな期待が寄せられています。生活リズムを崩す過度のアルバイトや活動などで、学生生活を貧しくしてしまわないよう、ご家庭でもご指導をお願いします。

3. 進路・学習・生活面での相談支援について

- ・ 相談支援の窓口は、①ゼミ担当教員、②科目担当教員、③実習担当教員、④キャリア支援担当、⑤事務室、⑥健康管理センターなど多様にあります。また、⑦メール相談、⑧後援会役員を通しての要望・相談なども可能です。早めの相談をお待ちしています。
- ・ この時期、授業や実習等をめぐり、自分の適性や進路選択の悩みなど様々な思いが交錯します。保護者の皆様には、適切な助言などご協力をお願い申し上げます。

4. 大学祭と保護者懇談会

- ・ 今年は富山国際大学と富山短期大学が一体となって「呉羽キャンパス合同大学祭」としてオンライン配信で実施します。(日時:10/16(土) テーマ:Reborn~新たな一歩~)
- ・ 3年生の卒業研究中間発表は期間を変更して(11/15~30予定)、オンラインで実施します。
- ・ 保護者懇談会は、同封の開催案内のとおり、10/25~11/5に実施します。

(学部長 宮田 徹)

コロナ禍の中での夏休みも終わり、後期がいよいよ始まりました。全ての授業が対面でスタートし、大学にも活気が戻ってきたように感じます。後期からは将来の進路に向けて、専門的な学びが本格化します。感染拡大に留意しつつも充実した大学生活を送ってくださることを期待します。保護者の皆様には、今後とも学習面、生活面にご支援を賜りますようお願い申し上げます。

1. 授業など学業について

前期は、心理学、教育原理、日本国憲法など、子ども育成の基本科目に加えて、大学生としての教養を身に付ける科目を通して、大学生としての幅広い教養を身に付けることができました。1年生は、どの授業でも学習意欲が高く、真面目に授業に取り組む様子が見られます。コロナ禍で何が起きるか分かりませんが、これからも意欲的に学んでほしいと思います。後期は、専門に関する科目も増えることから、大学生らしく活発な意見交換を行い、体験を通して学ぶことを期待しています。

2. 学生生活について

入学式翌日の入学オリエンテーションから、2年生が企画・準備した歓迎レクリエーション、授業や大学生活への相談の機会などを通して、4月当初から先輩、同級生と早くから交流をすることができたからか、スムーズに学生生活をスタートできている様子でした。

クラブ・サークル、学友会への参加も意欲的で、学生生活を有意義にしようとする姿勢が旺盛です。学外のボランティア活動等にも積極的に参加している姿が印象的です。

3. 保育分野について

後期からいよいよ「乳児保育」や「子どもと文化」など、幼保分野における専門科目を本格的に学びます。何となく、イメージとして捉えていた「子どものこと」を学問として学び、知識を身に付け、演習を通して実践力を身に付けます。子どもの教育のプロになるための学びが本格的に始まります。少しずつ気心が知れてきた仲間と共に討論では、真剣な意見の交流、演習では和気あいあいの声を掛け合いながら、元気な活動の姿が見られます。

4. 小学校教育分野について

先日、将来の夢は何ですか？と聞くと「私は、先生になりたいと思います。」としっかりと話す学生さんに出会いました。後期からは、教育原理や教職論など教職課程の学びがスタートします。また、音楽Ⅰや体育講義など専門の学びがスタートします。小学校教員を目指す学生にとっては、少しずつ先生になるための専門的な学びが始まります。さらに意識を高く意欲的に授業に参加してほしいと思います。

5. 社会福祉分野について

今年度入学生から、社会福祉士の養成カリキュラムが新しくなりました。これに伴い、これまで選択科目となっていた「心理学」や「医学一般」が必修科目となり、より質の高い実践能力を養えるよう、効果的な学修が展開されるようになりました。そのほか、「富山の福祉特別講義」を開講して、富山型デイサービスをはじめ県内の第一線で活躍する福祉の実践家を招き、これからの自分のキャリアを思い描けるような機会を設けています。

6. キャリア支援について

1年次後期から、「キャリア入門講座」が卒業必修科目の授業として始まります。授業のなかで、働くことの意義、教育や福祉を学び社会でどのような役割を果たせるのかなどについて学びます。また、保育士、小学校教諭、社会福祉士の現場等で活躍されている方をお招きして、それぞれの現場の話を学生が直接聴く機会を設けます。計画的にキャリア形成ができるよう、1年次から自分の進むべき道について考えていきます。

コロナ禍の中での夏休みも終わり、後期がよいよ始まりしました。全ての授業が対面でスタートし、大学にも活気が戻ってきたように感じます。後期は専門的な学びをさらに深め、将来の夢の実現に向けて各自の方向性を明確にして進路を考えることとなります。大学祭もあり、感染拡大に留意しつつも充実した大学生活を送ってくれることを期待します。保護者の皆様には、今後とも学習面、生活面にご支援を賜りますようお願い申し上げます。

1. 授業など学業について

前期は専門の科目も増えましたが、2年生の意欲的で熱心に授業に参加する姿勢は素晴らしいと思います。8月末に、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭の資格免許科目の「体育」の授業が行われました。学外では陸上競技場や市民プールにおいて幼児・児童の体育指導法の授業が行われましたが、進んで熱心取り組み体験を通して学ぶことができました。

進路を考える上で、科目の履修が重要になります。授業を6回欠席しますと、期末試験の受験資格がなくなり、単位が取得できません。卒業や資格取得にもかかわる問題ですので、ご家庭でもご指導をお願いいたします。

2. 学生生活について

去年はコロナ対応のために交流行事が全て中止され、学生同士の交流の機会が少なかったのですが、今年度は2年生が中心となって感染対策を施しながら実施できる新入生との交流行事を企画・開催し、コロナ禍でもできる交流の在り方を2年生が提示してくれました。学年を超えた学生間の交流が盛んに行われている様子が伺えます。

また、全国的に大学生年代の精神面が心配されている中、本学では、周りの人に気軽に相談できる環境を整え、気軽に悩みを話し、自らの力で解決していこうとする意欲的な姿が多く見られました。

3. 保育分野について

保育士資格取得希望者は、新型コロナウイルスの感染状況により「保育所実習Ⅰ」の受け入れに差が出てきてしまい、9月1日から始められた学生から、12月まで延びてしまった学生など様々ですが、各自がそれぞれの目標に向かって頑張っています。また「施設実習Ⅰ」(11/8～11/19)は、富山県内の児童福祉施設等で実施します。すでに配属先が決定していますので、目的意識を再確認し、事前学習及び体調管理に努め、実習に臨めるよう願っています。

4. 小学校教育分野について

先日、学生から「教育実習先が決まりました。楽しみです。」と報告がありました。3年次の教育実習先が決まり、より具体的に教職がイメージできるようになってきたと思います。後期は、「国語」「算数」など各教科の学びがスタートします。実際に小学校の教材を使ったり、教科書を使ったりして教材研究など学校現場の実践のしかたを学びます。学校現場を意識して意欲的に取り組んでほしいと思います。

5. 社会福祉分野について

2年次からは、少しずつ専門科目が増え始めるとともに、いよいよ「キャリア支援講座Ⅰ」が開講され、自分の進むべき就職先を具体的に考え出したといったところでしょうか。

また、あくまでも希望制ではありますが、3年生、4年生に混じって、社会福祉士国家試験の模擬試験を受けてもらうことといたしました。これは、前年度にはなかった取り組みとなっています。少しでも早くから国家試験対策に取り組むことといたしました。

6. キャリア支援について

「キャリア支援講座Ⅰ」は、3分野から希望する分野に分かれて授業を行っています。保育分野では、ピアノ演奏や自作保育教材実演等の実技試験対策、論作文の練習を、小学校分野では、教員採用試験で過去に出題された問題や集団討論の練習を、社会福祉分野では、社会保障の基礎など社会福祉に関わる様々な課題について考える機会をもっています。

コロナ禍の中での夏休みも終わり、後期がいよいよ始まりました。コロナの影響で実習の延期など3年生にとっては大変な夏休みだったと思います。後期は就職や進学を意識して専門的な学びをさらに深め、各自の進路に向けて本格的に取り組むこととなります。進路について悩むことも多いでしょうが、全力で支援したいと思います。保護者の皆様には、今後とも学習面、生活面にご支援を賜りますようお願い申し上げます。

1. 授業など学業について

前期、3年生は各自の専門科目に本当に意欲的に学習に取り組みました。その学びをもとに、3週間（15日間）の「幼稚園教育実習Ⅱ」と「小学校教育実習」に臨みました。コロナ禍のため、実習の延期もありましたが、夏休みに実施できた学生と実習が延期になった学生がありますが、後期には実習を終えることができると思います。ご協力いただいた幼稚園、小学校に感謝したいと思います。

実習を一つ終えるたびに、学生たちは大きく成長していきます。これらの経験が自分を知り、自らの適性に合った進路を決定していく材料になっていくことを期待します。

2. 学生生活について

コロナ禍の影響で、全国的に大学生年代の精神面が心配されている中、専門的な授業や活動が増え、実習を控えて多忙となる3年生の精神面をサポートするために、コロナ禍での心の持ちようをアドバイスしたり、気軽に周囲に相談できる体制を整えました。3年生は、気軽に悩みを話し、自らの力で解決していこうとする意欲的な姿が多く見られました。

3. 保育分野について

3週間（15日間）の「幼稚園教育実習Ⅱ」が8月後半から始まりましたが、コロナ禍のため、保育現場や学生に感染が及ばぬよう相談し、12月までの間に全員が終えられる予定となりました。また、新保育士養成課程の科目として「保育の計画と評価」「子ども家庭支援論」も始まります。保育の基本を大切にしながらも、子どもをとりまく社会情勢の変化を踏まえた保育実践ができる保育者養成を目指します。

4. 小学校教育分野について

「教育実習」「介護等体験」については、延期等もありましたが、多くの学生が実習を終え、12月までにほぼ完了する予定です。先日、ある校長先生にお電話すると「本当によく子どもと遊び、立派です。4月から本校に来てほしい。」というお話がありました。今まで大学で学んだことをもとに学校現場で力を発揮してくれたことを嬉しく思いました。これからさらに目的意識を明確にして4年生に向けて頑張ってもらいたいと思います。

5. 社会福祉分野について

いよいよ来年2～3月に、「相談援助実習Ⅰ・Ⅱ」（25日間かつ180時間）という長期間にわたる実習を迎える学年となりました。現在は、相談援助演習や実習指導等で、社会福祉士としての価値はもちろんのこと、専門知識や技術を学びながら、日々研鑽をしています。

また、「キャリア支援講座Ⅱ」では、先輩方の就職合格体験談を聞くことで、就職活動を我が事として捉え、より現場を意識した内容に心掛けて、着実に準備をしています。

6. キャリア支援について

通年科目である「キャリア支援講座Ⅱ」では、保育士・幼稚園教諭、小学校教諭、社会福祉士の中から希望する講座を受講します。一般企業や公務員などを目指す学生には、特別講座（課外）を提供し、東黒牧キャンパスのキャリアアドバイザーや人材育成企業の協力も得ながら、個々のニーズに沿った指導体制をとっています。後期には、各講座において、模擬面接や集団討論等、より実践的なプログラムも盛り込んでいきます。

コロナ禍の中での夏休みも終わり、後期がいよいよ始まりました。これからも続きますが、採用試験などの就職活動に4年生にとっては大変な夏休みだったと思います。後期は就職や進学も含め大学生活のまとめとなります。新しい進路に向けて不安や悩みも多いでしょうが、全力で支援したいと思います。保護者の皆様には、今後とも学習面、生活面にご支援を賜りますようお願い申し上げます。

1. 授業など学業について

前期、4年生は本当に真摯に各自の進路に向けて学び、力を合わせて頑張る姿が見られました。素晴らしい姿だったと思います。そして大学での学びもあと半年となりました。いよいよ、大学生活の総仕上げとなる4年次後期が始まります。学生一人一人にとって、卒業論文の執筆とともに、卒業後の進路に向けた大切な時期であることを自覚し、子ども育成学部で学んでよかったと言えるように充実した毎日にしてほしいと思います。

2. 学生生活について

コロナ禍の影響で、全国的に大学生年代の精神面が心配されている中、就職活動や進路選択のプレッシャーがかかる4年生の精神面をサポートするために、コロナ禍での心の持ちようをアドバイスしたり、気軽に周囲に相談できる体制を整えたりしました。4年生は、気軽に悩みを話し、自らの力で解決していこうとする意欲的な姿が多く見られました。

3. 保育分野について

6月に実施された保育所実習Ⅱ・施設実習Ⅱの事後指導や、幼稚園教諭一種免許状を取得するための最後の授業「教職実践演習」を通して、全学年を通じた「学びの軌跡の集大成」を行います。保育士・幼稚園教諭・保育教諭の採用試験は11月頃まで続きますが、求人も途切れなく学部が届きます。最後まで悔いなく挑戦して欲しいと願っています。

4. 小学校教育分野について

繰り返しになりますが、教員採用試験の結果については、38名（富山県37名、新潟県1名）と過去最高の合格率となりました。今後、講師の登録も行い教員を目指す全員が来年4月から教壇に立ちます。ここまでの学びを振り返ると4年生は協力して教員採用試験の問題に取り組んだり、模擬授業や面接練習に取り組んだりするなど熱意とチームワークで頑張ったと思います。真面目に協力して取り組む姿に今後の教員としての活躍を期待します。

5. 社会福祉分野について

いよいよ、なりたいと思える自分を実現させることが目の前までできています。社会福祉士枠で公務員になる夢を叶えた人、施設や病院でソーシャルワーカーとして働きたい自分を実現させた人等、本当に毎日の積み重ねが確実に結果に結びついていると思われれます。

あとは、来年2月に実施される34回目の社会福祉士の国家試験があります。あともうひと踏ん張りです。ぜひ大学での学びの集大成として、頑張ってきてほしいと思っています。

6. キャリア支援について

ゼミ担当教員とキャリア支援センターが中心となって連携を取り支援していますが、後期になると学生本人にも焦りが生じてきますので、働きたい職場について学生が主体的に考えられるよう、ご家庭でのお声かけをよろしくお願いいたします。

令和3年度卒業生（96名）の進路状況（令和4年3月18日現在）

小学校教育分野 39 小学校教諭・講師	保育・幼児教育分野 28 保育士・幼稚園教諭	社会福祉分野 12 社会福祉士・相談員等
富山県公立学校教員(小学校) 36 新潟県公立学校教員(小学校) 1 富山県公立学校講師希望 2	富山市保育士 3 砺波市保育士 射水市保育士 上市町保育士 黒部市保育士(会計年度任用)	[縣市町] 神奈川県庁(社会福祉士) 富山県庁(社会福祉士) 富山市(社会福祉士)
企業等 5	富山国際学園福祉会 4 富山城南会 2 出町青葉幼稚園 坂ノ下福祉会 吉島保育園 南部福祉会 白藤幼稚園 ジェイエイ氷見みどり会 わかくさ福祉会 浦山学園福祉会 魚津保育会 めぐみ福祉会 堀岡保育園 いちい保育園 なでしこ保育園 アソカ幼稚園 藤ノ木こども園	[障害福祉施設・事業] 射水福祉会 3 手をつなぐとなみ野
富山県生活協同組合 アルコット(株) (株)クスリのアオキ SOMPO ケア(株) 社会労務士法人 LaLa コンサルティング		[高齢者施設・事業] 舟見寿楽苑 城南会
公務員等 4	進学 8	[児童福祉施設・事業] 生活クラブ風の村
南砺市職員 射水市職員 富山県警 国立立山青少年の家(臨任)	富山大学大学院 上越教育大学大学院 6 慶応大学大学院	[病院] 富山県立中央病院(社会福祉士)
		[社会福祉事業団] 東京都社会福祉事業団

■主な試験等の結果（既卒者含む）

公立学校教員（小学校）50名合格（うち既卒者10名）

（※現役合格40名中、3名は大学院への進学を選択、そのため上記の表には37名と表記）

富山県内市町村保育士 7名合格（会計年度任用者含）

■複数免許・資格の取得

(1) 1人当たりの法定免許・資格(小・幼・保・社(受験資格))取得数:

4種類 = 2名 3種類 = 33名 2種類 = 36名 1種類 = 18名

(2) 資格・免許取得のべ数:

- * 小学校教諭一種免許状: 66名 (68.7%)
- * 幼稚園教諭一種免許状: 68名 (70.8%)
- * 保育士資格: 42名 (43.7%)
- * 社会福祉士(国家試験受験資格): 23名 (23.9%) うち合格者 16名(受験者21

名)

- * 社会福祉主事任用資格: 94名 (97.9%)
- * スクールソーシャルワーク教育課程修了: 5名 (5.2%) うち認定者 4名